

# NEWSJUNIOR

(Newspaper In Education 「教育に新聞を」)

教科研究部 社会

社会科部では、学園の教科指導研究の統一の目的である「どの子にとっても楽しく魅力ある学校(幼稚園)にするために、授業(保育)をどのように展開させればよいのか?」という点を踏まえて、平成八年度の研究課題を『NIE』と『教室ダイアログ』とし、研究を行いました。また、武蔵野東教育研究所主催の学園研究論文には、『NIE』を研究のテーマとして参加しました。この論文では、NIEの検証、他校におけるNIEの実践例、本学園の児童・生徒・教師にとつての新聞、本学園におけるNIEの実践、展望を研究報告しました。

社会部十六名で研究したNIEについて、この紙面を借りてその一部を紹介いたします。

## NIEとは

NIE(Newspaper In Education 「教育に新聞を」)とは、教師が新聞を教材に使って、児童・生徒の学習意欲を刺激する運動で、アメリカ合衆国のアイオワ州のある地方新聞社が、一九五五年に青少年の文字離れを憂慮した米国教育協会と共同で取り組んだ運動が、始まりと言われています。

日本では、一九八五年の新聞大会で初めて提唱されましたが、それ以前にも個人的に教師が新聞を

教材に活用したり、新聞づくりをしたりすることが広く行われていました。ただ、NIEがこうした取り組みと異なるのは、教師と新聞社が協力して、新聞活用の方法を共同で研究するところにあります。さらに、新聞の切り抜きだけでなく、情報を選択する力を養うため新聞そのものを生徒に与えて、丸ごと新聞を利用したり、新聞記者の取材体験談を聞いたり、新聞社を見学したりして、新聞について広い視野から勉強することも含まれます。

### NIE活動推進の背景

現在、NIE活動が注目される背景としては、いくつかのことが考えられます。まず、教師にとつては、子どもの活字離れ、読書嫌いの傾向を、新聞に親しませることで防止したいという願いがあります。また、新聞を活用することで、受験教育、偏差値教育による教科書主体の知識詰め込みに偏した教育を改善したり、教科書では学びにくい世の中の今の動きに関心を持ち、主体的に社会的事象について考えたりする子どもを育成していきたいとの願いもあります。

一方、新聞界側には、激しい販売競争の中で、若い人たちに新聞そのものをよく知ってもらい、興味を持たすことで、若者の新聞離れを解消し、将来の新聞購読者を拡大しようとするねらいもあります。

新聞という社会に深く関わっているメディアが、教育界に参加したり、協力できるという意義は大きく、二十一世紀の国際情報化社会のことを考えると、子どもたちに早くから活字に親しんでもらい、新聞を通して世界の情報を正しく理解してもらいたいという意図も感じられます。

## NIEの目的

日本新聞協会によるNIE活動は、新聞に親しむことで文字を読むことの基礎を学び、社会と主体的に関わっていく子どもたちの育成を目的としています。

実際に、NIEを実践している教師も、

- ・ 世の中の動き、社会的事象への関心を高める。
  - ・ 記事を要約する力や自分の考えをまとめる力をつける。
  - ・ 自分の考えを主張できるようにする。
  - ・ 問題解決能力を育てていく。
  - ・ 情報、資料活用の技能を身に付ける。
  - ・ 複数の新聞の読み比べによって見方の多様さを体得する。
- などを目的として活用しています。

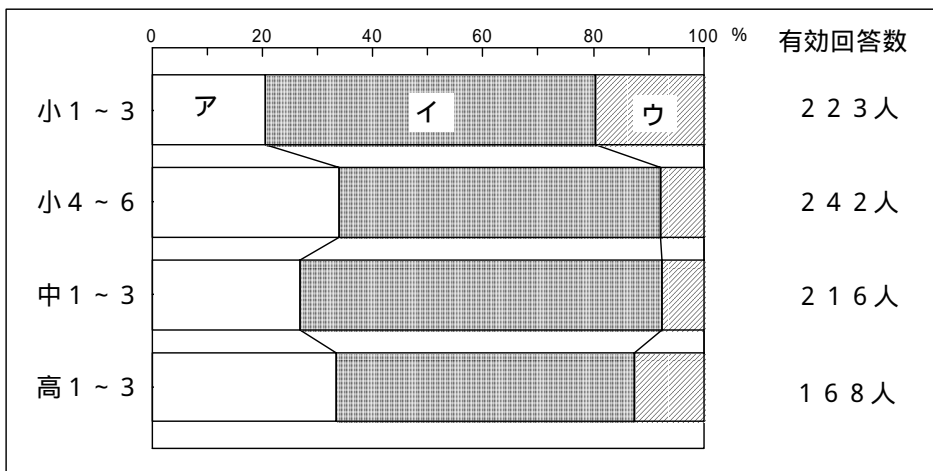
（「新聞で学ぼう、考えよう」 日本新聞協会）

また、家庭や学級内で、新聞記事を媒体としたコミュニケーションを持つことも目的の一つに挙げられると思います。家庭で新聞記事を共通の話題にし、どんな議論をしたか教室に反映させることをファミリーフォーカス（Family Focus）と呼んでいます。記事のことを家族で話し合ったり、学校での授業の様子を話題にすることで、親子の関係が深まることも期待できると思います。

NIEの概要については、以上でつかんでいただけたと思います。社会部では、NIEを研究するにあたり、東学園の児童・生徒たちの新聞への関わりを調査する必要性を感じ、アンケートを実施いたしました。次はアンケート結果の一部です。

対象 983名(小学校 524名、中学校 252名、高等専修学校 207名)  
 有効と思われる回答のみ集計  
 実施日 平成8年6月11日～21日

問 あなたは、ふだん、新聞を読みますか？  
 ア．毎日必ず読む      イ．ときどき読む      ウ．読まない

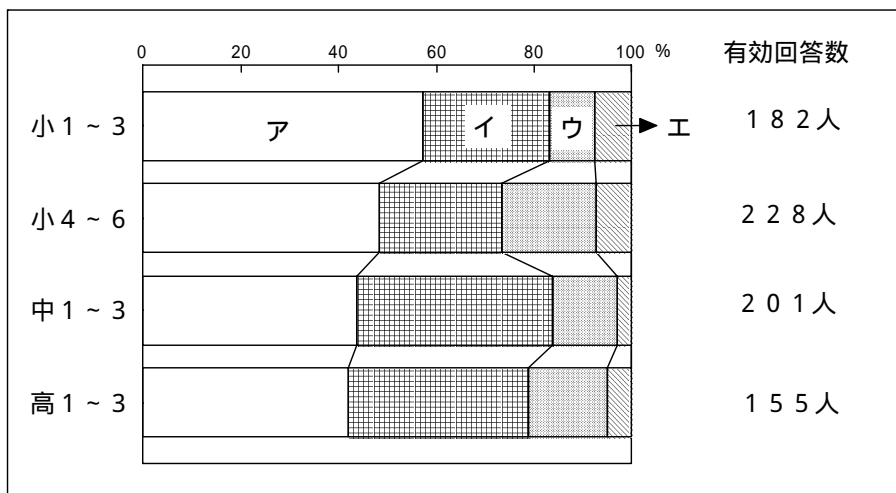


問 新聞はあなたにとって身近な物ですか？

	「はい」	「いいえ」	有効回答数
小1～3	56%	44%	216人
小4～6	79%	21%	227人
中1～3	69%	31%	195人
高1～3	72%	28%	162人

問 読む時はどれくらいの時間をかけて読みますか？

ア．1分～5分 イ．6分～10分 ウ．11分～20分 エ．21分以上



問 今までに学校の授業で新聞の内容をアツかったことはありますか？

	「あ る」	「な い」	有効回答数
小1～2	0%	100%	133人
小3	37%	63%	82人
小4～6	93%	7%	237人
中1～3	84%	16%	183人
高1～3	82%	18%	142人

アンケート結果を分析すると、東学園の児童、生徒は新聞を読む機会が少ないようですし、読む時間も少ないようです。

そこで、教師側が子どもたちに「新聞の楽しい読み方を学ぶ授業（保育）」をつくることや「新聞（ニュース）に対する興味を育てていく」が必要になってくると思います。新聞社においてもNIEの協力体制が確立してきておりサンプル提供などは大変協力的です。昨年度もNIEサンプルの「三内丸山遺跡」を無償で百八十部郵送していただきました。ただ、NIEの実践に関しては本来のNIEの意味に必ずしも限定して考える必要はないと思われます。それは情報源を「新聞」に限定せず、各種広告、TV、ラジオ、雑誌、書籍類、インターネット、各種講演や身近な人々の出来事などを「ニュース」としてとらえ、それを教材として子どもの年齢や状況に合わせ、さらに配慮と工夫を凝らして教育に取り入れていければと考えられるからです。つまり、News paper In EducationからNews In Educationへ拡大してとらえていくことにより、より幅広い視野を持つ子どもたちの育成にもつながっていくと考えています。また、それと並行してマスメディアが乱立する環境の中で、情報を正しく選択できる知識や教養を身につけさせていくことも必要であると思います。

NIEを展開していくには、もちろん教師の資質、力量、時間的な工夫が大切になってきますが、ニュースに対する関心を高め、さらに習慣化していくには、ご家庭の協力なくしては成しえない事だと思えます。また、ファミリーフォーカスのように家庭で新聞記事を共通の話題として議論していただき、それがH・Rや授業に反映し、それが再びリターンして、家庭における豊富なコミュニケーションにつながっていくならばと考えています。

是非ご家庭においても、子どもたちにニュースに接する機会を増やしたり、ニュースを話題にする時間をつくっていただければと思っております。教師側も、時代や社会のニーズに対応できる教育の一環としてNIEを位置づけて、今後も研究と実践を深めていきたいと考えています。